

鯖江市西山公園における 鳥類相とその季節変化

納村 力¹・大迫義人²

はじめに

自然環境を保全するには、動物の生息環境を分析してその種類、面積、構造などの資料を実際に応用してゆくことが必要である (Meffe & Carroll 1994). 鳥類においても環境の違いによって生息する種数や種構成は異なっており (例えば藤巻 1970, 村井・樋口 1988, 由井 1988), 逆に, その結果は, ある種の生息のための条件を明らかにすることができる.

福井県福井平野から武生盆地にかけては, いくつかの島状の小丘 (孤立丘陵) が点在している (福井県 1976). 森林性鳥類にとってこれらの生息地は, ひとつの島と考えられ, そこに生息する鳥類の種数や種構成は, その位置や面積によって変わってくると予想される. この観点から各孤立丘陵に生息する鳥類とその生息条件を明らかにすることは, 福井市や鯖江市における鳥類の保護区を設定する上で有用な資料となる.

そこで, 鯖江市の孤立丘陵のひとつである西山公園の鳥類相とその季節変化について調査し, 生息条件について考察してみた. この地区は, すでに都市近郊の鳥類生息地として 1994年11月に西山公園鳥獣保護区 (40ha) に設定されたが (福井県 1994), 今回の調査結果はここを管理してゆく上での基礎資料ともなるであろう.

調査地と方法

調査は, 福井県鯖江市の市街地の標高112.6mの長泉寺山の一部である西山公園 (35° 57'N, 136° 11'E) で行なった. 長泉寺山は, 南北に最大1,250m, 東西に最大800mの, 面積約50haの孤立した丘で, 西山動物園を中心とした都市公園として整備されていた. この公園内に標高20mから100mまでの延長約700mの林縁部と, 標高110mまでの延長約840mの林内部に調査ルートを設けた (図1). 林縁部はヒサカキ *Eurya japonica* などの低木が多く, 林内部はコナラ *Quercus serrata*, クヌギ *Q. acutissima* などの高木の多い植生であった.

調査は, 1986年5月~1994年5月まで月平均10.9日の計1,066日かけて行なった. 日の出後に調査を開始し, 約2km/時の速度で歩き, 約30m内に出現した鳥類の種と個体数および繁殖状況について記録した. 営巣, 育雛, 巣立ち後の幼鳥を確認した場合に繁殖していると判断した.

1. 鯖江市立鯖江東小学校. 〒916 福井県鯖江市新横江2丁目6-37

2. 福井県自然保護センター. 〒912-01 福井県大野市南六呂師169-11-2

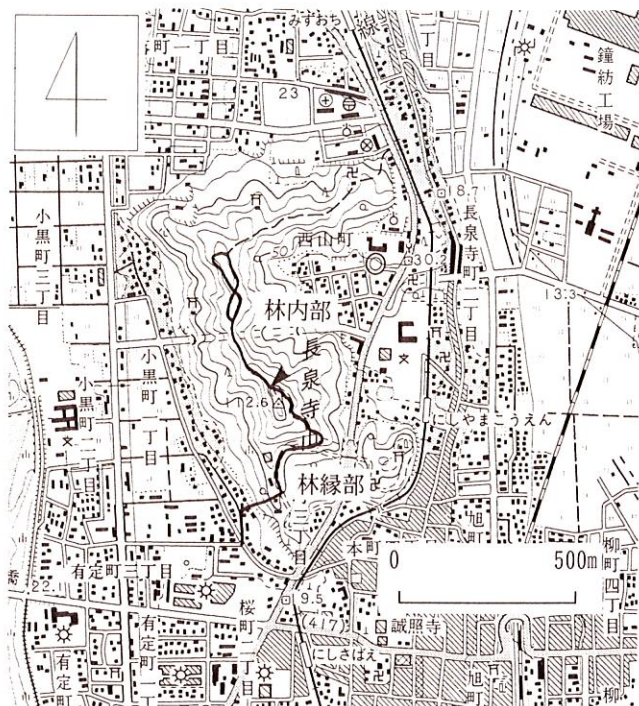


図1. 調査地と調査ルート。矢印は林縁部と林内部の境を示す。

Fig. 1. Study area and census route. An arrow shows the border between forest edge and interior areas.

なお、観察と識別は、8倍の双眼鏡と20倍の望遠鏡を用いて行なった。

結果と考察

記録された種と学名は表1にまとめた。

1. 記録種

9年間で計13目30科95種の鳥類が記録された(表1)。福井県の鳥類は1982年までに18目54科274種が確認されているが(福井県 1982)、種数で34.7%が記録されたことになる。これらのうち環境庁指定の「日本の絶滅のおそれのある野生生物」の危急種のオオタカが、希少種のチュウサギ、ハイタカが記録された。

上空通過または一時滞在と考えられる種を除くと計5目17科36種の鳥類が生息していると考えられる。また、計4目16科21種の鳥類の繁殖が確認されたが(表1)、夏期に観察された種は、その確認がなくても繁殖の可能性はある。樋口ほか(1982)によると面積50haの森林には、15種または16種の鳥類が繁殖すると予想されるが、西山公園はその予想値よりも高かった。これは、緯度や地理・地形などの違いによるとも考えられるが、調査日数が多かったことと周辺に河川や田畑が存在し、環境のモザイク性が高かったためと考えられる。

表1. 鯖江市西山公園において記録された鳥類リスト (1986年5月—1994年5月).

Table 1. List of birds recorded at Nishiyama Park in Sabae City (May 1986—May 1994).

				調査年と調査日数(日) Study year and duration (days)									
目 Order	科 Family	種名 Species	学名 Scientific name	1986 (97)	1987 (83)	1988 (28)	1989 (29)	1990 (50)	1991 (276)	1992 (280)	1993 (154)	1994 (69)	
ペリウ コウバク	ウ	カウ	<i>Phalacrocorax carbo</i>					○	○	○	○	○	
コウバク	ウ	コウバク	<i>Nycticorax nycticorax</i>					○	○	○	○	○	
		コウバク	<i>Butorides striatus</i>					○	○	○	○	○	
		コウバク	<i>Bubulcus ibis</i>	○				○	○	○	○	○	
		コウバク	<i>Egretta alba</i>					○	○	○	○	○	
		コウバク	<i>Egretta intermedia</i>					○	○	○	○	○	
		コウバク	<i>Egretta garzetta</i>					○	○	○	○	○	
		コウバク	<i>Ardea cinerea</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
カウバク	カウバク	カウバク	<i>Anas poecilorhyncha</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
カウバク	カウバク	カウバク	<i>Milvus migrans</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
		カウバク	<i>Accipiter gentilis</i>				○	○	○	○	○	○	
		カウバク	<i>Accipiter gularis</i>					○	○	○	○	○	
		カウバク	<i>Accipiter nisus</i>					○	○	○	○	○	
		カウバク	<i>Buteo buteo</i>	○				○	○	○	○	○	
		カウバク	<i>Butastur indicus</i>			○	○	○	○	○	○	○	
カウバク	カウバク	カウバク	<i>Phasianus colchicus</i>			○	○	○	○	○	○	○	
カウバク	カウバク	カウバク	<i>Microsarcops cinereus</i>					○	○	○	○	○	
カウバク	カウバク	カウバク	<i>Larus canus</i>					○	○	○	○	○	
カウバク	カウバク	カウバク	<i>Siroptopelia orientalis</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
カウバク	カウバク	カウバク	<i>Sphenurus sieboldii</i>		○		○	○	○	○	○	○	
カウバク	カウバク	カウバク	<i>Cuculus canorus</i>	○				○	○	○	○	○	
カウバク	カウバク	カウバク	<i>Cuculus saturatus</i>					○	○	○	○	○	
カウバク	カウバク	カウバク	<i>Cuculus poliocephalus</i>					○	○	○	○	○	
カウバク	カウバク	カウバク	<i>Ninox scutulata</i>					○	○	○	○	○	
カウバク	カウバク	カウバク	<i>Strix uralensis</i>	○				○	○	○	○	○	
カウバク	カウバク	カウバク	<i>Chaetura caudacuta</i>					○	○	○	○	○	
カウバク	カウバク	カウバク	<i>Apus affinis</i>					○	○	○	○	○	
カウバク	カウバク	カウバク	<i>Apus pacificus</i>			○			○	○	○	○	
カウバク	カウバク	カウバク	<i>Alcedo atthis</i>					○	○	○	○	○	
カウバク	カウバク	カウバク	<i>Picus awokera</i>		○	○	○	○	○	○	○	○	
カウバク	カウバク	カウバク	<i>Dendrocoptes major</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
カウバク	カウバク	カウバク	<i>Dendrocoptes kizuki</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
カウバク	カウバク	カウバク	<i>Alauda arvensis</i>		○	○	○	○	○	○	○	○	
カウバク	カウバク	カウバク	<i>Birundo rustica</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
カウバク	カウバク	カウバク	<i>Birundo daurica</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
カウバク	カウバク	カウバク	<i>Delichon urbica</i>					○	○	○	○	○	
カウバク	カウバク	カウバク	<i>Motacilla cinerea</i>			○	○	○	○	○	○	○	
カウバク	カウバク	カウバク	<i>Motacilla alba</i>			○	○	○	○	○	○	○	
カウバク	カウバク	カウバク	<i>Motacilla grandis</i>		○	○	○	○	○	○	○	○	
カウバク	カウバク	カウバク	<i>Anthus hodgesoi</i>					○	○	○	○	○	
カウバク	カウバク	カウバク	<i>Pericrocotus divaricatus</i>		○	○	○	○	○	○	○	○	
カウバク	カウバク	カウバク	<i>Hypsipetes anurotis</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
カウバク	カウバク	カウバク	<i>Lanius bucephalus</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
カウバク	カウバク	カウバク	<i>Bombicilla japonica</i>			○	○	○	○	○	○	○	
カウバク	カウバク	カウバク	<i>Troglodytes troglodytes</i>			○	○	○	○	○	○	○	
カウバク	カウバク	カウバク	<i>Eritacus akahise</i>					○	○	○	○	○	
カウバク	カウバク	カウバク	<i>Eritacus cyane</i>					○	○	○	○	○	
カウバク	カウバク	カウバク	<i>Tarsiger cyanurus</i>		○	○	○	○	○	○	○	○	
カウバク	カウバク	カウバク	<i>Phoenicurus aureus</i>		○	○	○	○	○	○	○	○	
カウバク	カウバク	カウバク	<i>Saxicola torquata</i>		○	○	○	○	○	○	○	○	
カウバク	カウバク	カウバク	<i>Turdus dauma</i>		○	○	○	○	○	○	○	○	
カウバク	カウバク	カウバク	<i>Turdus cardis</i>		○	○	○	○	○	○	○	○	
カウバク	カウバク	カウバク	<i>Turdus chrysolaus</i>		○	○	○	○	○	○	○	○	
カウバク	カウバク	カウバク	<i>Turdus pallidus</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
カウバク	カウバク	カウバク	<i>Turdus obscurus</i>		○	○	○	○	○	○	○	○	
カウバク	カウバク	カウバク	<i>Turdus naumanni</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
カウバク	カウバク	カウバク	<i>Cettia squameiceps</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
カウバク	カウバク	カウバク	<i>Cettia diphone</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
カウバク	カウバク	カウバク	<i>Acrocephalus arundinaceus</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
カウバク	カウバク	カウバク	<i>Phylloscopus borealis</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
カウバク	カウバク	カウバク	<i>Phylloscopus tenellipes</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
カウバク	カウバク	カウバク	<i>Phylloscopus occipitalis</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
カウバク	カウバク	カウバク	<i>Regulus regulus</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
カウバク	カウバク	カウバク	<i>Ficedula narcissina</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
カウバク	カウバク	カウバク	<i>Ficedula mugimaki</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
カウバク	カウバク	カウバク	<i>Cyanoptila cyanopelana</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
カウバク	カウバク	カウバク	<i>Muscicapa sibirica</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
カウバク	カウバク	カウバク	<i>Muscicapa griseostricta</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
カウバク	カウバク	カウバク	<i>Muscicapa latirostris</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
カウバク	カウバク	カウバク	<i>Terpsiphone atrocaudata</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
カウバク	カウバク	カウバク	<i>Aegithalos caudatus</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
カウバク	カウバク	カウバク	<i>Parus montanus</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
カウバク	カウバク	カウバク	<i>Parus ater</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
カウバク	カウバク	カウバク	<i>Parus varius</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
カウバク	カウバク	カウバク	<i>Parus major</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
カウバク	カウバク	カウバク	<i>Zosterops japonica</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
カウバク	カウバク	カウバク	<i>Emberiza cioides</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
カウバク	カウバク	カウバク	<i>Emberiza rustica</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
カウバク	カウバク	カウバク	<i>Emberiza elegans</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
カウバク	カウバク	カウバク	<i>Emberiza spodocephala</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
カウバク	カウバク	カウバク	<i>Emberiza variabilis</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
カウバク	カウバク	カウバク	<i>Fringilla montifringilla</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
カウバク	カウバク	カウバク	<i>Carduelis sinica</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
カウバク	カウバク	カウバク	<i>Carduelis spinus</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
カウバク	カウバク	カウバク	<i>Uragus sibiricus</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
カウバク	カウバク	カウバク	<i>Pyrrhula pyrrhula</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
カウバク	カウバク	カウバク	<i>Eophona migratoria</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
カウバク	カウバク	カウバク	<i>Eophona personata</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
カウバク	カウバク	カウバク	<i>Coccothraustes coccothraustes</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
カウバク	カウバク	カウバク	<i>Passer montanus</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
カウバク	カウバク	カウバク	<i>Sturnus cineraceus</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
カウバク	カウバク	カウバク	<i>Garrulus glandarius</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
カウバク	カウバク	カウバク	<i>Cyanopica cyana</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
カウバク	カウバク	カウバク	<i>Corvus corone</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
カウバク	カウバク	カウバク	<i>Corvus macrorhynchos</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
13目	30科	95種		43種	56種	52種	51種	62種	73種	80種	78種	64種	

*: 繁殖の確認された種.

表2. 鯖江市西山公園における鳥類の観察時期(1992年).

Table 2. Seasonal change in bird species recorded at Nishiyama Park in Sabae City (1992).

目 Order	科 Family	種名 Species	学名 Scientific name	観察時期と調査日数(日) Occurrence season and study days									
				1月 (25)	2月 (23)	3月 (30)	4月 (23)	5月 (27)	6月 (18)	7月 (22)	8月 (23)	9月 (25)	10月 (28)
カ/ワ	科	カ/ワ	<i>Phalacrocorax carbo</i>										
カ/ワ	科	カ/ワ	<i>Nycticorax nycticorax</i>										
カ/ワ	科	カ/ワ	<i>Bubulcus ibis</i>										
カ/ワ	科	カ/ワ	<i>Egretta intermedia</i>										
カ/ワ	科	カ/ワ	<i>Egretta garzetta</i>										
カ/ワ	科	カ/ワ	<i>Ardea cinerea</i>										
カ/ワ	科	カ/ワ	<i>Anas poecilorhyncha</i>										
カ/ワ	科	カ/ワ	<i>M. l. v. nigrans</i>										
カ/ワ	科	カ/ワ	<i>Accipiter gentilis</i>										
カ/ワ	科	カ/ワ	<i>Accipiter nisus</i>										
カ/ワ	科	カ/ワ	<i>Buteo buteo</i>										
カ/ワ	科	カ/ワ	<i>Butastur indicus</i>										
カ/ワ	科	カ/ワ	<i>Phasianus colchicus</i>										
カ/ワ	科	カ/ワ	<i>Larus canus</i>										
カ/ワ	科	カ/ワ	<i>Streptopelia orientalis</i>										
カ/ワ	科	カ/ワ	<i>Oriolus canorus</i>										
カ/ワ	科	カ/ワ	<i>Oriolus saturatus</i>										
カ/ワ	科	カ/ワ	<i>Oriolus poliocephalus</i>										
カ/ワ	科	カ/ワ	<i>Sitta uralensis</i>										
カ/ワ	科	カ/ワ	<i>Hirundo caudacuta</i>										
カ/ワ	科	カ/ワ	<i>Apus affinis</i>										
カ/ワ	科	カ/ワ	<i>Alcedo atthis</i>										
カ/ワ	科	カ/ワ	<i>Picus awokera</i>										
カ/ワ	科	カ/ワ	<i>Dendrocopos major</i>										
カ/ワ	科	カ/ワ	<i>Dendrocopos kizuki</i>										
カ/ワ	科	カ/ワ	<i>Alauda arvensis</i>										
カ/ワ	科	カ/ワ	<i>Hirundo rustica</i>										
カ/ワ	科	カ/ワ	<i>Hirundo daurica</i>										
カ/ワ	科	カ/ワ	<i>Motacilla cinerea</i>										
カ/ワ	科	カ/ワ	<i>Motacilla alba</i>										
カ/ワ	科	カ/ワ	<i>Motacilla grandis</i>										
カ/ワ	科	カ/ワ	<i>Anthus hodgsoni</i>										
カ/ワ	科	カ/ワ	<i>Pericrocotus divaricatus</i>										
カ/ワ	科	カ/ワ	<i>Bypops petas amurensis</i>										
カ/ワ	科	カ/ワ	<i>Lanius bucephalus</i>										
カ/ワ	科	カ/ワ	<i>Troglodytes troglodytes</i>										
カ/ワ	科	カ/ワ	<i>Erithacus rubecula</i>										
カ/ワ	科	カ/ワ	<i>Tarsiger cyanurus</i>										
カ/ワ	科	カ/ワ	<i>Phoenicurus aureus</i>										
カ/ワ	科	カ/ワ	<i>Turdus dauma</i>										
カ/ワ	科	カ/ワ	<i>Turdus cardis</i>										
カ/ワ	科	カ/ワ	<i>Turdus chrysolaus</i>										
カ/ワ	科	カ/ワ	<i>Turdus pallidus</i>										
カ/ワ	科	カ/ワ	<i>Turdus obscurus</i>										
カ/ワ	科	カ/ワ	<i>Turdus naumanni</i>										
カ/ワ	科	カ/ワ	<i>Cettia squameiceps</i>										
カ/ワ	科	カ/ワ	<i>Cettia diphone</i>										
カ/ワ	科	カ/ワ	<i>Phylloscopus borealis</i>										
カ/ワ	科	カ/ワ	<i>Phylloscopus tenellipes</i>										
カ/ワ	科	カ/ワ	<i>Phylloscopus occipitalis</i>										
カ/ワ	科	カ/ワ	<i>Regulus regulus</i>										
カ/ワ	科	カ/ワ	<i>Picedula narsissina</i>										
カ/ワ	科	カ/ワ	<i>Cyanoptila cyanomelana</i>										
カ/ワ	科	カ/ワ	<i>Muscicapa griseisticta</i>										
カ/ワ	科	カ/ワ	<i>Muscicapa latirostris</i>										
カ/ワ	科	カ/ワ	<i>Terpsiphone atrocaudata</i>										
カ/ワ	科	カ/ワ	<i>Agittalos caudatus</i>										
カ/ワ	科	カ/ワ	<i>Parus ater</i>										
カ/ワ	科	カ/ワ	<i>Parus varius</i>										
カ/ワ	科	カ/ワ	<i>Parus major</i>										
カ/ワ	科	カ/ワ	<i>Zosterops japonica</i>										
カ/ワ	科	カ/ワ	<i>Euberyza cioides</i>										
カ/ワ	科	カ/ワ	<i>Euberyza nistica</i>										
カ/ワ	科	カ/ワ	<i>Euberyza elegans</i>										
カ/ワ	科	カ/ワ	<i>Euberyza spodocephala</i>										
カ/ワ	科	カ/ワ	<i>Euberyza variabilis</i>										
カ/ワ	科	カ/ワ	<i>Fringilla montifringilla</i>										
カ/ワ	科	カ/ワ	<i>Carduelis sinica</i>										
カ/ワ	科	カ/ワ	<i>Carduelis spinus</i>										
カ/ワ	科	カ/ワ	<i>Tragula sibiricus</i>										
カ/ワ	科	カ/ワ	<i>Pyrrhula pyrrhula</i>										
カ/ワ	科	カ/ワ	<i>Eophona nigratoria</i>										
カ/ワ	科	カ/ワ	<i>Eophona persanata</i>										
カ/ワ	科	カ/ワ	<i>Coccothraustes coccothraustes</i>										
カ/ワ	科	カ/ワ	<i>Passer montanus</i>										
カ/ワ	科	カ/ワ	<i>Sturnus cineraceus</i>										
カ/ワ	科	カ/ワ	<i>Carrinus glandarius</i>										
カ/ワ	科	カ/ワ	<i>Cyanopica cyana</i>										
カ/ワ	科	カ/ワ	<i>Corvus corone</i>										
カ/ワ	科	カ/ワ	<i>Corvus macrorhynchos</i>										
13目	28科	80種		38種	35種	37種	52種	49種	31種	29種	29種	34種	42種

+: 生息していると考えられる種

同じような孤立丘陵で、面積約800ha、最大標高334.2mの鯖江市三里山では、夏期に計8目21科37種の鳥類が、面積約175ha、最大標高238.9mの武生市村国山では、夏期に計5目17科25種の鳥類が（福井県自然保護センター 1993）、そして面積約91ha、最大標高116mの福井市足羽山では、周年で計10目25科75種の鳥類が記録されている（内山 1990）。それらの中で、繁殖の確認されているのは、それぞれ24種、11種、8種であった（福井県自然保護センター 1993）。西山公園を含む長泉寺山は面積50haほどしかないにも拘らず、より広いこれらの孤立丘陵よりも記録種数、繁殖種数とも多かったが、これは、調査日数と精度の差であって、環境の違いによるものではないと考えられる。

2. 季節変化

最も調査日数の多かった1992年には、計13目28科80種の鳥類が記録された。生息していると考えられる種のうち、周年記録されたのはトビ、キジ、キジバト、コゲラ、ヒヨドリなどの18種（50.0%）、夏期にのみ記録されたのはツバメ、ヤブサメ、キビタキなどの5種（13.9%）、そして冬期にのみ記録されたのはアオゲラ、アカゲラ、ルリビタキ、ジョウビタキ、シロハラ、ツグミなどの13種（36.1%）であった（表2）。その中で、アオゲラ、アカゲラ、ヒガラは、福井県では留鳥となっているが（福井県 1982）、これらの種にとって西山公園は、越冬はできるが繁殖に適してはいなかったと考えられる。

3. 生息環境

生息していると考えられる種のなかで、コシアカツバメ、セグロセキレイ、マヒワ、スズメ、ムクドリは林縁部のみで、他にキジ、モズ、ジョウビタキは主に林縁部で記録された。一方、ルリビタキ、ヤブサメ、ウソは主に林内部で記録された。コシアカツバメは、上空を利用しており、オープンな林縁部で観察されやすかったと考えられるが、その他の種はそれぞれにあった環境で観察された。同じヒタキ科でもジョウビタキとルリビタキ、ヤブサメの生息環境の違いは顕著であった。

面積約40haの小さな公園にも拘らず、森林、草地、耕作地、集落などの異質の環境が含まれることは種の多様性を高めていると考えられる（Meffe & Carroll 1994）。これからは、環境の面積・構造と生息・繁殖鳥種との関係について精度の高い調査が必要であろう。

謝 辞

記録の整理を鶴崎千亜紀さんと前田四郎氏さんに手伝っていただいた。ここに記して感謝する。

要 約

1986年5月から1993年5月まで、福井県鯖江市の西山公園において、鳥類相とその季節変化について調査した。ほぼ周年にわたり計1,066日の調査で、計13目30科95種の鳥類が記録された。そのうち、5目17科36種が生息していると考えられ、4目16科21種の繁殖が確認された。これらのうち環境庁指定の「日本の絶滅のおそれのある野生生物」の危急種のオオタカが、希少種のチュウサギ、ハイタカが記録された。1992年には計13目28科80種の鳥類が記録され、生息していると考えられる種のうち、周年記録されたのは18種（50.0%）、夏

期にのみ記録されたのは5種 (13.9%), そして冬期にのみ記録されたのは13種 (36.1%) であった。林縁部に特異的に生息している鳥種として、キジ、セグロセキレイ、モズ、ジョウビタキ、マヒワ、スズメ、ムクドリなどが、林内部に特異的に生息している鳥種として、ルリビタキ、ヤブサメ、ウソなどが記録された。これからは、環境の面積・構造と生息・繁殖鳥種との関係について精度の高い調査が必要であろう。

引用文献

- 藤巻裕蔵. 1970. 北海道中央部における天然林と人工林の鳥相の比較. 北海道林業試験場報告 8:43-55.
- 藤巻裕蔵. 1981. 北海道十勝地方の鳥類 3. 帯広市における植被と鳥類の関係. 山階鳥研報 13:50-60.
- 福井県. 1976. 福井県自然環境保全基礎調査報告書. 298pp. 福井県.
- 福井県. 1982. 福井県の鳥獣. 240pp. 福井県.
- 福井県. 1994. 平成6年度福井県鳥獣保護区等位置図. 福井県.
- 福井県自然保護センター. 1993. 渡り鳥保全調査報告-1989年度・1990年度-. Ciconia 2:1-13.
- 樋口広芳・塚本洋三・花輪伸一・武田宗也. 1982. 森林面積と鳥の種数との関係. Strix 1:70-80.
- Meffe, G.K. and C.R. Carroll. 1994. Principles of conservation biology. 600pp. Sinauer Associates, Sunderland.
- 村井英紀・樋口広芳. 1988. 森林性鳥類の多様性に影響する諸要因. Strix 7:83-100.
- 内山正彦. 1990. 福井市足羽山の鳥類について. 福井市立郷土自然科学博物館研究報告 37:81-90.
- 由井正敏. 1988. 森に棲む野鳥の生態学. 237pp. 創文, 東京.

Avifauna and its seasonal change at Nishiyama Park, Sabae City

Tsutomu Osamura¹ and Yoshito Ohsako²

The avifauna and its seasonal change were studied at Nishiyama Park in Sabae City, Fukui from 1986 to 1993. A total of 95 species of 30 families of 13 orders was recorded for a total of 1,066 days in all season, of which 36 species were thought to inhabit the park and 21 species were confirmed to breed. There were recorded Northern Goshawks as vulnerable species; Intermediate Egrets and European Sparrow Hawks as rare species that Environment Agency has registered. A total of 80 species of 28 families of 13 orders was recorded in 1992. Out of the inhabiting birds, 18 species (50.0%) were recorded throughout the year, 5 species (13.9%) were only in summer and 13 species (36.1%) were only in winter. Japanese Pheasants, Japanese Wagtails, Bull-headed Shrikes, Daurian Redstarts, Siskins, Tree Sparrows and Grey Starlings were observed in forest edge area and Red-flanked Bluetails, Short-tailed Bush Warblers and Bullfinches were in forest interior area. More study should be conducted on avifauna-habitat relationship in order to conserve the park.

1. Sabae-higashi Elementary School. Shin-yokoe 2-6-37, Sabae-shi, Fukui 916
2. Fukui Nature Conservation Center. Minamirokuroshi 169-11-2, Ono-shi, Fukui 912-01

